

平成27年3月27日

公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部長

大雪と石狩の自然を守る会代表  
忠別川の自然に親しむ会代表  
あさひかわサケの会代表  
オサラッペ・コウモリ研究所代表

旭川開発建設部

治水課長 吉村俊彦

忠別川取水工事に伴うサケ産卵床の保護について（要望）に対する回答について

日頃より、北海道開発行政の推進に特段の御配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。  
貴会からの標記要望について、2月12日付で受け取りました。次のとおり回答致します。

1. 今回の工事計画内容とこれまでの経過、工事期間と工事工作物の撤去方法等について、  
改めて詳細にご説明下さい。

回答1)

今回の工事は河床に管渠を敷設するものであり、敷設箇所を土嚢により締め切り、排水を行った上で工事を実施する予定でした。

平成26年10月16日～11月17日にかけて、忠別川の調査区間（石狩川合流点～忠別川取水堰）において、サケ産卵床調査を4回にわたり実施し、計167箇所のサケの産卵床を確認しております。（JR富良野線～氷点橋間では33箇所）

平成26年11月28日から12月10日にかけて、土嚢設置箇所の検討を行い、1月8日より、把握したサケ産卵床を避けて土嚢の設置を行いました。サケ産卵床の流出が想定されたため、工事箇所への流量を調整の後、工事を継続致しました。その後、改めてサケ産卵床の水深の低下が確認されたため、サケ産卵床箇所の水位を確保した上で、1月13日に工事を一時中断し、施工方法を再検討しておりました。

再検討の結果、サケの産卵床の保全に関する配慮について、より確実な対応とするため、工事の必要な箇所をより産卵床から離す対応を講じることとし、2月24日より工事を再開しております。

なお、土嚢の撤去については、専門家の意見も踏まえ、極力水深を確保しサケ産卵床に影響を与えないよう、3月27日より実施しております。

2. 今回の工事では、忠別川右岸を堰き止め主流の流路を左岸に変更したことにより右岸における河床の露出、左岸における河床の浸食と下流部での堆砂を招き、結果としてサケ産卵床の露出や流失、埋没を招いたと考えられます。工事に伴う河川環境の急激な変化が最も大きな問題です。左岸流路を確保するために行われたと思われる河床の掘削がどのような経緯でどのように行われたのかははっきりしていません。事実関係を調査した上で明らかにして下さい。

回答2)

工事の実施状況について、現地状況の確認は困難ですが、工事関係者から現地で聞き取りを行い、ご指摘の箇所では、サケ産卵床を避けて一部中州の掘削及び土嚢設置箇所で重機を運行し、土嚢設置作業を行っていましたが、河床の掘削は行っていないことを確認しました。

なお、現地調査の結果、産卵床の露出・凍結や流出については確認しているところであり、冬期の流量減少や工事による流量調整などによる水位低下や流況の変化が要因と考えております。

3. 流水を堰き止めるために土嚢が設置されていますが、産卵床に対する配慮が不十分で設置方法にも問題があったと考えられます。産卵床を含む周辺で大型重機の走行跡が見られることから産卵床に与えた影響も大きいと考えられます。

土嚢を設置した右岸下流の産卵床が、水位低下により大きく露出していますが、その側で河床が不自然に掘削された形跡があります。どのような行為があったのかははっきりしていません。事実関係を明らかにして下さい。

回答3)

工事の実施状況について、現地状況の確認は困難ですが、工事関係者から現地で聞き取りを行い、工事箇所においては、サケ産卵床を避けて把握したサケ産卵床上流部までは重機を運行しましたが、サケ産卵床部では重機を運行していないことを確認しました。

また、工事箇所下流では、重機は運行していないことを確認しました。

4. 今回の工事では、専門家が事前に行ったサケの産卵床調査や実態把握の調査結果が、適切に工事計画に反映されていないように思われます。どのように調査データを把握してどのような工事対策を立てたのか、今後の防止対策につながる重要な事項ですので、具体的に明らかにして下さい。

回答4)

平成26年10月16日～11月17日にかけて、忠別川の調査区間（石狩川合流点～忠別川取水堰）において、サケ産卵床調査を4回にわたり実施し、計167箇所のサケの産卵床を確認しております。（JR富良野線～氷点橋間では33箇所）

平成26年11月28日～12月10日にかけて、工事箇所における産卵床調査結果を踏まえ

土嚢設置位置について検討を行いました。その後、工事箇所付近の産卵床区間を示す目印を設置し、施工業者とサケ産卵床確認箇所を共有するとともに、サケ産卵床に影響のないよう土嚢の設置及び重機の運行を指導しております。

なお、工事箇所以外の産卵床に対して、工事や河川環境の変化による影響の事前の予測はできておりませんでした。ご指摘等を踏まえて、産卵床の水位を確保する等の対策を行ったところです。

5. 忠別川は市民も注目しているサケ遡上河川で、産卵床の調査を始め河川環境の把握など市民や関係団体が日頃から積極的な活動をしています。そうした関係者との情報交換がなかったことも今回の事態を招いた大きな要因の一つと考えられます。

今後、このような事態を回避するためには、関係する市民や有識者を含めた形式的ではなく有効に機能する情報交換の場が必要と思われます。この件に関する見解と今後の対策を明示下さい。

回答5)

忠別川における河川工事にあたり、必要に応じて専門家へ事前に相談することや、地域の方々との情報交換が必要と考えております。

具体的な方法等については、引き続き検討して参りたいと考えております。

6. 今回の工事にあたり、実際に工事を担当する業者に対してサケの産卵床に関する説明や教育が行われていたと思いますが、現場での対応を見ていると十分に機能しているように見えませんでした。工事業者に対してどのような方策をとられたのか、また今後どのような手立てを講じるのか明らかにして下さい。

回答6)

平成26年11月28日～12月10日にかけて、土嚢設置位置について検討を行い、その後、施工業者とサケ産卵床確認箇所を共有するとともに、産卵床に影響のないよう土嚢の設置及び重機の運行を指導しております。

ご意見等も踏まえて、改めて、忠別川の河川環境や魚類の生態について工事関係者間において情報の共有を図り理解を深めて参りたいと考えております。

7. 緊急対策は一部で行われていますが、この後の工事対策をどのように考えているかご説明下さい。また、石狩川水系の河川生物保全に関する、今後のあり方についてどのような方向で臨むのかご説明下さい。

回答7)

工事対策については、サケの産卵床の保全に関する配慮について、より確実な対応とするため、工事の必要な箇所をより産卵床から離す対応を講じることとし、2月24日より工事を再開しております。また、土嚢の撤去については、専門家の意見も踏まえ、極力水深

を確保しサケ産卵床に影響を与えないよう、3月27日より実施しております。

なお、石狩川水系の河川生物保全については、河川環境の多様性や連続性を保全し、動植物の生息・生育環境の保全・形成を図ることが重要であり、魚類の生息環境が良好に保たれるよう配慮することが必要と考えております。

ご意見等も踏まえ、今後も、河川工事の実施にあたり、事前に専門家などの意見を伺うなど、河川生物の生息環境が保全されるよう取り組んで参りたいと考えております。

最後に、旭川開発建設部では、自治体、地域の方々から意見を伺いながら、地域の安全安心の確保とともに、サケなどの移動の連続性を妨げている横断工作物への魚道の設置など良好な河川環境の保全・復元や地域住民に活用できる水辺の創出等を含め様々な取り組みを行ってきているところです。引き続きご理解とご協力をお願いします。